

第3回流域社会分科会 提言に向けての議論

「揖保川の歴史・文化」をどう考えるべきか？

これまでの揖保川をめぐる歴史・文化的環境の保全・活用方針

- ・残し生かすべき資源とは何か？(個性、ハード・ソフト、生活の物語、景観)
- ・これまでの揖保川の歴史・文化的蓄積を資源としてどう把握するか？
- ・ハード整備以外の方策との連携をどのようにとるか？
- ・これからの揖保川の歴史・文化をどう生み育むか？

【これまでの意見】

- ・歴史・文化は個性的な川づくりには不可欠
- ・生かすべきものはハードだけではなくソフトの中にも存在
- ・地域の歴史・文化を語るだけでなく、個人の生活に根ざした歴史・文化を含む物語
- ・景観も資源
- ・川の物語の伝承には語り部の存在が大切、現在の活動を下敷きにした取り組みが有効
- ・川は過去を振り返るだけではなく未来に向けて歴史・文化を生み育む存在
- ・具体例:資源マップづくり、風景写真公募

「人と河川との関わりのあり方」はどうあるべきか？

重層的な関わりを育む方策

- ・関心をもってもらうにはどうするか？
- ・川・水と親しむ場(空間・機会)づくりをどう考えるか？
- ・川・水と親しむ暮らしの確立に向けての推進方策はどうあるべきか？
- ・環境学習機能をどう考えるか？
- ・参画と協働にもとづく取り組みをどう進めていくか？

【これまでの意見】

- ・川・水と親しむ暮らしの確立
- ・教育の場としての活用
- ・自主性・自発性、公共性の確立を課題に、官民の役割分担を問い直しつつ、重層的な取り組みのモデルに
- ・具体例:川の駅

「流域社会と河川整備のあり方」はどうあるべきか？

河川整備の目標を明確化する方策

- ・地域社会全体が関与する仕組みをどのように整備するか？
- ・調整・合意に至る意思決定の仕組みをどのように整備するか？(上中下流)
- ・地域づくりとしての取り組みをどう進めていくか？

【これまでの意見】

- ・地域社会みんなが知恵を出し合うような取り組みのあり方
- ・長期的な想定にもとづく整備だけではなく、短期的・中期的な取り組み目標も必要